

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

１ めざす学校像

『 社会人として自立し、自身の夢を実現させ、地域や社会に貢献できる人材を育てる学校 』
１ 「社会人としての素養」を育む 「時間を守る」「挨拶ができる」といった基本的な生活習慣を確立し、時には厳しく寄り添いながら生徒への指導・支援を行い、生徒の「豊かな心」、「自尊感情」、「規範意識」を育てる。将来、地域の指導者として活躍できる人材の育成に力を注ぐ。
２ 「確かな学力」を育む 基礎学力の定着を目標に、生徒自らが主体的に学び、考えをまとめ、発表できる力を育成する。また自学自習の習慣を身につける環境、学習支援体制を整え、教職員の「授業改善」に対する組織的な取り組みを推進する。
３ 「未来を拓く力」を育む 生徒一人ひとりが自らの将来像を描き、希望や適性等に応じた進路を実現できる力を育む。また様々な課題を抱え支援を必要とする生徒に対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校と連携をしながら、すべての生徒が安心して学校生活を送れる教育環境づくりに努める。

２ 中期的目標

１ 進路を切り拓く力の育成 （１）「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善 ア 生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。 イ 教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等をとおして「授業改善」を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の授業理解度 80％以上を維持する。(R02：68%、R03：76%、R04：83%) （２）基礎学力の定着、学習習慣の確立 ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。 イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。 ※ 図書館利用者数を年間 1200 人を維持する。(R02：4020 人、R03：2275 人、R04:1377 人) （３）キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度 85％以上を維持する。(R02：80%、R03：83%、R04：89%)
２ 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養 （１）一人ひとりへの支援体制の強化 ア 生徒が安心して相談できる環境を整備し、課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議で的確に把握できる体制を作る。 イ 生徒一人ひとりに必要な支援を行うために保護者、中学校、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携を図る。 （２）生徒の「規範意識」、「自己有用感」、「人権意識」の醸成 ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。 イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、社会性を育む。 ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3 年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。
３ 安全・安心で魅力ある学校づくり （１）生徒が安心して安全に生活できる環境づくり ア PTA や同窓会等と連携して、生徒が安心して過ごせる安全な教育環境整備をすすめる。 ※ 学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を生徒・保護者とも 60%にする。 (R02：生徒 57%、保護者 59%、R03：生徒 55%、保護者 57%、R04：生徒 63%、保護者 52%) （２）地域に貢献できる人材の育成 ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。 イ 体育専門コースの充実を図り、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。
４ 校務の効率化と働き方改革の推進 （１） 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。 （２） 校内ネットワークを含めた ICT の活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和５年 月実施〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 進路を切り拓く力の育成	(1) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善 ア 生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。	ア・グループワークやプレゼンテーションを取り入れた授業研究を進め、「主体的で対話的な深い学び」への取組みを推進する。 ・ICTを積極的に授業で活用し「わかる授業」への取組みを推進する。	ア・学校教育自己診断（生徒）「勉強することは大切」[89%]、「授業はわかりやすい」[83%]を昨年以上にする。 ・教員の授業でのICT活用度90%以上にする。[86%]	
	イ 教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等をとおして「授業改善」を図る。	イ・公開授業・研究授業の実施や授業アンケート結果の分析を行い、授業改善・授業力の向上を図る。	イ・学校教育自己診断（生徒）「教え方の工夫」の肯定度を昨年度以上にする。[89%] 授業アンケートによる評価の平均値3.4以上を維持する。 [3.53]	
	(2) 基礎学力の定着、学習習慣の確立 ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。	ア・少人数展開授業を全ての学年で取り入れ、基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る。 1年：数学、英語 2年：国語、数学 3年：国語、英語	ア・学校教育自己診断（生徒）「少人数によるきめ細やかな指導」を昨年度以上にする。[73%] 少人数展開授業アンケートでの満足度について昨年度水準を維持する。 [1年：国97%・数90%・英95% 2年：数78% 3年：国96%・英90%]	
	イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。	イ・学習に利用できる書籍の拡充(地域の図書館との連携も含む)および調べ学習や探究活動等、図書館を利活用した授業を推進する。	イ・公立図書館からの団体貸出を利活用する。 図書館利用数並びに貸出数を1200人 200冊以上を維持する。 [1377人（うち授業363人）・244冊]	
	(3) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。	ア・3年間を見通した計画に基づき進路指導の充実を図り、早い段階から具体的な進路目標を持たせる取組みを推進する。	ア・学校教育自己診断(生徒) 「適切な進路指導」の肯定度85%以上を維持する。[89%] 学校斡旋就職1次内定率85%以上を維持する。[91%]	
2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養	(1) 一人ひとりへの支援体制の強化 ア さまざまな支援が必要な生徒に対し情報共有しながら、組織として支援できる体制を整える。	ア・学習を含め課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議で的確に把握し、指導できる体制を維持する。	ア・学校教育自己診断（生徒・保護者）「親身に相談に応じてくれる」肯定度[79%・63%]、（保護者）「相談に適切に応じてくれる」肯定度[65%]を昨年度以上にする。	
	イ 生徒一人ひとりが抱える諸問題に必要な支援を行うために積極的に外部機関との連携を図る。	イ・SCを活用した教育相談窓口を機能させ、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。 ・SSWを積極的に活用し、保護者、中学校、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携を積極的に図る。	イ・SCの活用回数について昨年度水準を維持する。[13回 18件] ・SSWの活用回数について昨年度水準を維持する。[14回 14件]	
	(2) 生徒の「規範意識」「自己有用感」「人権意識」の醸成 ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。	ア・登下校指導、遅刻指導、校内巡回など生活習慣確立をめざす取組みを全教職員で行い、生徒が安全で安心して学べる環境を維持・発展させる。	ア・生徒一人あたりの平均遅刻回数1.7回以内にする。[1.9回] ・学校教育自己診断(生徒)「生活指導」肯定度90%以上を維持する。[93%]	
	イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。	イ・体育大会、文化祭等生徒が主体的に企画・運営・参画する行事を充実させる。 ・新入生の部活動体験の実施や、部活動の成果を発表する機会を増やすことなどにより、部活動を顕彰する。	イ・学校教育自己診断(生徒)「学校行事」参加肯定度70%以上を維持する。 [74%] ・新入生の部活動加入率40%以上を維持する。[53%]	
	ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。	ウ・いじめアンケートの実施やSNSをめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。 ・「総合的な探究の時間」の年間計画の中で国際理解学習を計画的に取入れる。	ウ・学校教育自己診断（生徒）「人権教育」に関する肯定度90%以上を維持する。[91%] ・外部人材を招聘し、国際理解学習を効果的に行う。	

3 安全・安心で魅力ある学校づくり	(1) 生徒が安全に安心して生活できる環境づくり ア 保護者への積極的な情報提供に取り組む。	ア・メール配信等により、(非常変災時の対応など)保護者へ迅速かつ適切な情報提供を行う。	ア・学校教育自己診断(保護者)における「HP・メール」利用度を70%以上にする。[69%] 保護者向け学校クラウドサービス・メール配信を30回以上行う。[51回]	
	イ 地域と連携して様々な安全教育に取り組む。	イ・地域の外部機関等と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みをすすめる。(熱中症対策や防犯・防災、交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等)	イ・自転車の交通事故件数20件以下を維持する。[18件]	
	ウ PTAや同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。	ウ・PTAや同窓会等と連携した教育環境整備の推進および校内緑化活動の実施	ウ・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度を60%以上にする。 [生徒 63%、保護者 52%]	
	(2) 地域に貢献できる人材の育成 ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。	ア・生徒の地域のイベント等への自主的な活動を推奨し、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。	ア・地域のイベント等への部活動生徒の参加を積極的に行う。	
	イ 体育専門コースの充実を図り、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。	イ・体育専門科目の特色ある授業の展開や防災教育の観点を取り入れた校内での野外体験実習等を実施する。	イ・体育専門コース選択生の満足度90%以上を維持する。 [2年 100%、3年 92%]	
4 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。 (2) 校内ネットワークを含めたICTの活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。	・最終退勤時間の目標時刻の見直し等の取組みにより、時間外労働の縮減を図る。 ・ペーパーレス会議の実施、一斉メールの配信など、業務の効率化のためのネットワークの活用をさらに推進する。 ・ネットワークを活用した分掌・委員会・学年での情報の共有化および教科内での教材の蓄積、共有化を図る。	・職員の時間外労働月平均時間を30時間以下を維持する。[26.6h] ・職員会議をすべてペーパーレスで行う。 管理職からの連絡や、資料提供にメール配信等を活用する。[144回] ・職員朝礼等の連絡事項は全校トップページより美原高校の連絡掲示板を活用する。[147回]	